



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485

ホームページ: <http://www.saiseikai-wakayama.jp/>



済生会

わかやま

NEWS

第19号

発行日: 2011.01

～ 理 念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、
信頼され、患者さんも職員も元氣
が出る病院をめざします。

— Information —

寒気ことのほか厳しい睦月、今年も済生会和歌山病院は地域社会に求められる病院をテーマに取り組んでまいります。

今年には年頭に当たり、和歌山県民ならぜひ知っておいてほしい「エルツール号の悲劇」の話をしたしたいと思います。時は1890年（明治23年）9月16日、時の明治天皇を表敬訪問し、横浜港から帰途についたトルコ海軍の軍艦「エルツール号」の和歌山県串本町大島沖で起きた海難事故のお話です。22時、台風に遭遇したエルツール号は座礁沈没し、司令官をはじめ587名の命が奪われる大惨事となりましたが、波間を漂う



九死に一生を得た乗組員を大島島民は総出で救助し生存者の介抱に当たりました。この時、台風により出漁できず食料の蓄えもわずかだったにもかかわらず、島民は浴衣などの衣類、卵やサツマイモ、それに非常食用のニワトリすら供出するなど献身的に生存者たちの回復に努めたのです。この結果、寺、学校、灯台に収容された69名の命が助かりました。

遭難の翌朝、事件は和歌山県知事を通じて日本政府に伝えられ、知らせを聞いた明治天皇はこの遭難に大いに心を痛め、政府として可能な限りの援助を行うよう指示しました。各新聞は衝撃的なニュースとして伝え、多くの義捐金・弔慰金が寄せられたのです。こうして遭難者に対する支援が政府をあげて行われ、69名の生存者は遭難事故から20日後に日本海軍の軍艦「比叡」と「金剛」に乗り、翌年の1891年1月にトルコ（オスマン帝国）の首都イスタンブールに送り届けられました。

この大島島民と日本の行動はトルコ本国の人々に大きな感動を与えました。以来、この出来事はトルコの学校教科書にもとりあげられ、トルコ人の親日感情の原点になっているそうです。

私はこの出来事に病院の在り方の原点を見ることができるとのことです。当時の大島島民は傷ついた乗組員を必死で手当し、元気になった乗組員は本国に帰ることができました。ここには当たり前のようにトルコ人乗組員を助けた島民の信念と優しさがありません。この心がまえこそが我々医療従事者にとってもっとも大切なものだと私は考えています。



大島島民の思いやり、心意気を胸にいただき今年も私どもは、患者さんも職員も元氣が出る病院を目指して頑張っていきます。

院 長 松崎 交作

腰痛治療

整形外科医長 遠藤 徹

日常の診療において、腰痛を訴えて来院する患者は非常に多く、厚生労働省が行っている国民健康調査でも常に上位の愁訴となっています。腰痛の原因疾患は様々であり、稀ですが化膿性脊椎炎や悪性腫瘍などの重篤な病気が隠れている場合もあります。しかし、腰痛患者の約8割は原因が特定されているものではなく、加齢的な変化を基盤とするもの、姿勢や疲労にともなうもの、スポーツや労働による負荷にともなうものがその多くを占めています。したがって治療としては、手術以外の治療、保存的治療の対象となることが多く、日常生活指導、理学療法、薬物療法、装具療法などが併用されるのが一般的です。保存的治療というものの、実際のところは忙しい日常診療の中では、きめ細かな指導もなかなかできず、医師の診察が腰痛患者の十分満足するものではないこともしばしばあるようです。それらの多くの人にはマッサージや鍼灸、整骨院などにかかるようで、そのような代替医療が腰痛患者の受け皿になっているのも事実です。疲労に伴う腰痛、自然治癒するような腰痛なら代替医療でもいいのですが、かといって医療機関を受診する必要がないということではありません。先ほど述べたように重大な病態を有するものもあるので、それらを早期に診断をすることが大切です。



また、腰痛患者の多くは腰痛に対する不安を感じており、他の心理的ストレスが腰痛を悪化させていることもしばしばあり、それらを軽減するのも医師の役目だと考えています。前者の鑑別診断をすることは医師が常に心がけていることといえますが、後者は私自身も十分にできているか疑問です。情報化社会でたくさんの情報がある中、誤った情報で、手術が必要でないかと不安を感じる患者も少なくありません。正確な診断と情報でその不安を取り除くことは非常に大切なことと考えています。腰痛と心理的な要素との関連は以前から取りざたされていますが、最近、福島県立医科大学では腰痛に対する「リエゾン療法」が盛んにとり組まれています。具体的には整形外科医と心療医が連携し、整形外科では薬物治療や、理学療法を行い、心身医療科では腰痛の原因である心理的ストレスを軽減するために心理療法が用いられています。このような取り組みがされるなか、一般診療医ができることは決して多くはありませんが、正確な情報を提供し、指導することで、患者のストレスを軽減することで、腰痛の治療につながると考えています。

「医療安全管理室の取り組み」

医療安全管理室 室長 澤田 康幸

医療の高度化・複雑化に伴い、医療事故の防止や患者さんを守るためには、医療者個人の努力だけでは限界があります。そこで当院では医療安全という観点から様々な取り組みを行っています。平成7年からの事故防止対策委員会設置を皮切りに、平成12年に安全対策委員会の発足。平成21年4月からは医療安全管理室の立ち上げと同時に医療安全管理者（専従リスクマネージャー）を配置し、全部署の安全対策委員とともに組織横断的に活動する体制ができました。



現在、毎月1回安全対策委員会を開催して、医療安全や事故防止等について検討しています。

また、医療安全に関する職員の取り組みの確認・評価と意識向上を目的に、年3回各部署を回る「安

全パトロール」を実施しています。

さらに年2回以上全職員を対象に、講師を招いての安全研修会を開催しています。

最近では、外来においてお名前を確認する際に、患者さん自らフルネームを名乗っていただくようお願いするポスターの作成。また、入院患者さんにはリストバンドからバーコードを読み取るシステムの採用等によって、患者さん間違いの防止に努め、安全性の向上につなげています。

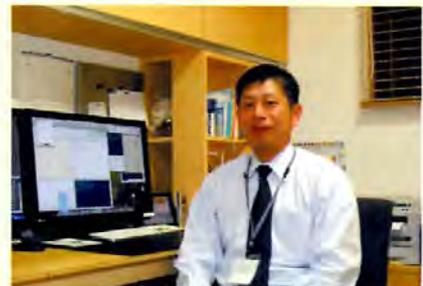
たとえ事故に至らなくてもヒヤリとしたりハツとした事に対しては、職員から積極的に「ハツとメモ」を出してもらい、それらを調査・分析して改善策を検討することで事故の未然防止と再発防止に努めています。

今後も医療事故ゼロを目指して、安全対策に取り組んでいきたいと考えています。



阪井循環器科内科医院 阪井 康仁 先生

当院は、済生会病院のすぐ南側に位置する医療機関で、循環器内科、一般内科を主に診療しています。もとは、私の曾祖父が耳鼻科を開業した場所で、私自身も生まれてから11年間生活しました。学んだ大学も移転前の和医大ですので、まさに地元です。私自身、済生会病院では平成15年8月から2年8ヶ月循環器科で勤務し、その後労災病院を経て、20年6月に継承開業しました。



済生会時代は、緊急・定時を問わずほぼ全例のカテーテル治療に携わり、心エコー、運動負荷、RIなどの検査も担当し、さらには、外来、救急、病棟と、ハードな毎日でしたが、迅速かつ正確にというスキルの向上に役立ちました。また、多くの紹介患者さんの診療を通して、病診連携の必要性、重要性についても学びました。地域医療は病院だけでは成り立たず、病・診の連携と協調が不可欠と認識しました。現在は立場が逆になりましたが、同じ認識のもと、紹介する際にはできるだけ紹介される立場にも立って、と心がけております。

済生会病院は、地域連携室の対応が迅速で、大変助かっています。また、当院では対応できない場合は、循環器内科やその他の科の先生方、コメディカルの方々に大変お世話になっています。特に循環器という領域では、普段の診療も済生会病院のバックアップあってこそ、と感謝しております。

当方が健康であれば、あと20~30年お世話になるつもりですので、今後ともよろしく願い申し上げます。

済生会和歌山病院外来診療予定表

(平成23年1月1日現在)

区 分		月	火	水	木	金	
内 科	消化器内科	2 診	山原 邦浩	—	山原 邦浩	—	川口 雅功
		3 診	文野 真樹	—	川口 雅功	—	文野 真樹
	糖尿病・代謝内科	4 診	巽 邦浩	江川 公浩	荒古 道子	江川 公浩	荒古 道子
	循環器内科	5 診	片岩 秀朗	大鹿 裕之	片岩 秀朗	松本 啓希	大鹿 裕之
放射線科			—	—	野村 尚三	—	—
脳 神 経 外 科	7 診	仲 寛	中川 真里	山家 弘雄	仲 寛	林 靖二	
	8 診	山家 弘雄	—	—	中川 真里	—	
外 科 ・ 心 臓 血 管 外 科	8 診	—	高垣 有作	戸口 佳代	—	岩橋 正尋	
	9 診	重里 政信	川嶋 秀治	重里 政信	岩橋 正尋	中村 恭子	
	10 診	戸口 佳代	—	川嶋 秀治	—	—	
整 形 外 科	13 診	遠藤 徹	船岡 信彦	新 患 診	松崎 交作	船岡 信彦	
	14 診	平 一裕	納田 和博		納田 和博	遠藤 徹	
	30 診	—	—		平 一裕	—	
リハビリテーション科		6 階	担当医	西田 秀樹	西田 秀樹	西田 秀樹	担 当 医
耳 鼻 咽 喉 科		15 診	—	—	医大応援医師	—	—
腎 セ ン タ ー		2 階	—	—	—	岡本 昌典	—
眼 科		2 階	医大応援医師	医大応援医師	—	医大応援医師	医大応援医師
皮 膚 科		2 階	上中智香子	—	—	山本 有紀	—
泌 尿 器 科		2 階	—	—	佐々木有見子	—	児玉 芳孝

※内科 (糖尿病・代謝)江川 公浩/荒古 道子/巽 邦浩
(肝/消化器)川口 雅功/文野 真樹/山原 邦浩
(循 環 器)大鹿 裕之/片岩 秀朗/松本 啓希

*土曜日は休診です。

*腎センターは木曜日午後 保存期外来を実施。

*消化器内科の外来診察は月・水・金です。

*月曜日午後から予約制で禁煙外来を行っています。

【受付時間】 午前 (全科) 8時45分～11時00分
(但し、予約患者さまは除く)

診療案内

診 察 日 : 月～金曜日

受付時間 : 午前8時45分～午前11時 (但し、予約患者様はこの限りにあらず)

休 診 日 : 土・日・祝祭日 (年末年始)

面会時間 : 月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187